

SIT+AIT+KU+KMUTT+SUT+ITB+NTU gPBL: 災害に強い多文化共生都市の創造に関するワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2025年09月08日 ~2025年09月17日	日本	カセサート大学 アジア工科大学 スラナリー工科大学 キングモンクット工科大学 ンプリ校 バンドン工科大学 国立台湾大学	・土木工学科、社会基盤学 専攻 ・学部1年生、学部2年生、学部3年生、学部4年生、修士1年生、修士2年生、博士1年生、博士2年生、博士3年生	(芝浦工業大学) 学生29名、学生バイト8名、 教員1名 (カセサート大学) 学生17名、教員4名 (アジア工科大学) 学生23名、教員1名 (スラナリー工科大学) 学生4名、教員1名 (キングモンクット工科大学 ンプリ校) 学生16名、教員2名 (バンドン工科大学) 学生32名、教員1名 (国立台湾大学) 学生29名、教員3名、職員 1名	稲積 真哉(土木工学課程 都市・環境コース)、宮本 仁 志(土木工学課程都市・環境 コース)



図1 集合写真

芝浦工業大学豊洲キャンパスにおいて、「Build Tokyo Together: 国境を越えて、防災と共生のまちを創る」をテーマとしたグローバルPBLを2025年9月8日から17日の10日間にわたり開催した。本プログラムでは、災害に強く、多文化が息づく未来都市の共創を目的とし、首都直下地震や台風・洪水リスクを抱える東京において、多文化共生をテーマにした「安心して暮らせるまち」を学生チームが議論・提案することを目標とした。

本プログラムには、芝浦工業大学(SIT)の土木系学生29名をはじめ、アジア各国から多数の学生が参加した。具体的には、アジア工科大学院大学(AIT)から23名、カセサート大学(KU)から17名、モンクット王工科大学トンブリー校(KMUTT)から16名、スラナリー工科大学(SUT)から4名、バンドン工科大学(ITB)から32名、国立台湾大学(NTU)から29名の土木系学生が参加し、引率教職員を含む総勢約173名の多国籍チームが結成された。

プログラム期間中、参加者は9つのグループに分かれ、避難所配置、地盤条件に応じたゾーニング、言語バリアへの配慮などを盛り込んだ防災性と住みやすさの両立を目指すプロジェクトに取り組んだ。グループ活動の初期段階では、アイスブレイク活動としてブリッジコンテストを開催した。このコンテストでは、限られた材料を用いて橋梁模型を製作し、その構造的な性能を競うことで、参加者同士の親睦を深めると同時に、土木工学の基本的な構造力学の理解を促進した。異なる文化背景を持つ学生たちが創造的なアイデアを出し合い、協力して問題解決に取り組む過程は、その後のグループワークにおける良好な協働関係の基盤となった。

文化交流の機会として、浴衣ワークショップを各大学別に実施した。これは日本の伝統文化を体験する貴重な機会となり、技術的な議論だけでなく、文化的な理解を深める重要な役割を果たした。参加者からは、日本文化への理解が深まったとの声が多く聞かれた。

各参加大学からは、それぞれの国や地域における土木工学の取り組みや研究成果について紹介が行われた。これにより、参加者は各国における土木工学の多様なアプローチや課題について理解を深めることができた。特に、気候変動対応や災害リスク管理については、各国の地理的・社会的特性に応じた多様な解決策が共有された。



図2 グループ活動の様子 (1)



図3 グループ活動の様子 (2)



図4 グループ活動の様子 (3)



図5 異文化交流の様子



図6 聴講中の学生



図7 最終発表中の学生